

## 甲状腺外科草子 104

### 山田方谷：両親の訓戒

杉野 圭三

備中松山藩の藩政改革を行った山田方谷は幼少時から神童との高い評価を受けてきた。



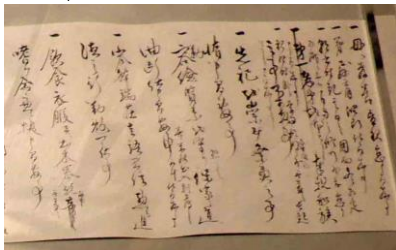
山田方谷 (1805-1877) 四歳の書

方谷の祖先は武門の出だが故あって農民となった。家の再興を願う両親は方谷が乳飲み子の頃から字を教え、三歳で漢字を覚え近くの神社には四歳の時に奉納した扁額が残る。

五歳になると実家から 20km 離れた親戚の寺に預けられ、藩儒・丸川松隠の回陽塾で学び神童と呼ばれ六歳の時、藩主の前で書を披露、九歳の時には「学問の目的は治国平天下」と答えている。

40歳で亡くなった母梶の言葉が碑文に残る。「愛しい児よ、必ずお父さんの志を成し遂げるのだよ。しかし、時の勢いに乗って一人で走りすぎると躓くものだよ。お願いです、生涯を立派に終えておくれ」

父五郎吉の残した訓戒を記す。



#### 五郎吉の訓戒

- 一. 母への孝養を尽くし昼夜怠らぬこと
- 一. 弟の教育に油断しないこと
- 一. 朝六時に起き、用向きを定め、修業を怠らぬこと
- 一. 夜十時に伏し、修業・用向き以外に無用の長起きをしない

- 一. 先祖を敬い、祭祀を怠らぬこと
  - 一. 勤儉質素を守り家庭を安らかにし米穀や銀子の出し入れに酷薄な計らいをしない
  - 一. 容姿は端正に、言語は信実、徳をつみ行いに励む
  - 一. 飲食・衣服・器具などの無益な嗜みに心を用いない
  - 一. 賭博・みだらな歌・酒宴・遊興などのざれごとに無益な費用をかけない
  - 一. 男女の曖昧な間柄にはせつに警戒する
  - 一. 悪友に交わり利益に誘われ欲に心をくらまさぬこと
  - 一. 郷里の困窮した人や病人はねんごろに尋ね、交誼を篤くし睦み合う心がけをわすれない
  - 一. 家の内外の掃除や家屋の破損に心を配り、火のもとに油断しない
- 右の箇条を固く守り、家事を整え、慈母への孝養と幼弟の撫育に専念し、孔夫子の教えを旨とし、先賢の志に従い学業の道に怠ることなく日夜に励むこと。

勉学に励んだ方谷であったが、13歳(1818年)の時に母が死去、翌年父も死去し、家業を継がざるを得なかった。

18歳の時、家業を家族に任せて京都の寺島白鹿の門下生となり、20歳の時に、評判を聞いた備中松山藩主・板倉勝職から奨学金として二人扶持を与えられ、藩の学問所への出入りを許される。さらに士分に取り立てられ中小姓格、八人扶持を与えられ、藩校・有終館の会頭(教授)に任じられた。

両親の薫陶を受け、天性の才能だけでなく不断的努力を続け、周囲から極めて高い評価を受けていたものと推察される。

この両親にしてこの子あり！

参考資料：山田方谷(童門冬二)、山田方谷記念館(高梁市)、Wikipedia

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年6月13日